

位置図は不要



位置図

区画溝



国府関連施設の区画溝の可能性が
ある。全景データは掘り下げ前で、
掘り下げ後はこのような溝になる

対応テキスト：
text01.glb
区画溝



位置図

土師器



この区画溝からは土師器のお椀が
出土している

出土位置

対応テキスト：
text02.glb
土師器

対応モデル：
model02.glb



位置図

溝



東西に走る溝。用途は不明

対応テキスト：
text03.glb
溝



位置図

出土位置

緑釉陶器（三足盤）

上から撮影



横から撮影



盤に三つの足がついた器種。愛知県にある猿投窯で作られたもの

対応テキスト：
text04.glb
緑釉陶器

対応モデル：
Model04.glb

井戸



近世以降の井戸。井戸内は水をくみ上げる際に使用されてた鉄製の筒がある

対応テキスト：
text05.glb
井戸



位置図

井戸



江戸期の井戸。木枠が残っており
陶磁器や越前焼などの遺物が出土
した

対応テキスト：
text05.glb
井戸

土坑（平安時代）



楕円形の土坑。須恵器や土師器が
出土している

対応テキスト：
text07.glb
土坑（平安時代）

土坑（中世）



ここからは土師器（赤い皿のこと）が重なって出土している

対応テキスト：
text08.glb
土坑（中世）



位置図

灯明皿（土師器）

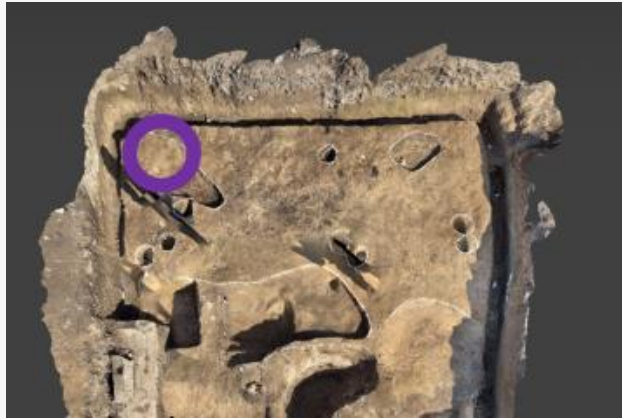


土師皿。皿の縁に炭化物が付着しており、灯明皿として使われていたものと思われる

対応テキスト：
text02.glb
土師器

対応モデル：
model09.glb

土坑（平安時代）



調査区北西隅に位置している土坑。
残存率の高い須恵器や土師器が出
土している

対応テキスト：
text07.glb
土坑（平安時代）

出土位置



位置図

須恵器（杯身・杯蓋）



1200度の高温で焼成して作られた器。高台のつかない杯身と、つまみのある杯蓋がほぼ完形の状態で出土した

対応テキスト：
text11.glb
須恵器

対応モデル：
Model11.glb

出土位置



位置図

土師器（暗文土器）



へラで磨かれた箇所

内外面をへらで磨いている土師器。
金属器を模しているもの

対応テキスト：
text02.glb
土師器

対応モデル：
model12.glb

柱穴（平安時代）



須恵器の蓋が完形で出土した柱穴。
須恵器の年代から、平安時代の柱
穴と思われる

対応テキスト：
text13.glb
柱穴（平安時代）

番号	①	②
タイトル	柱穴（平安時代）	須恵器
モデル	×	○
説明	○	○



位置図

須恵器（蓋）



白色の須恵器。通常より焼きが甘かったため、灰色ではなく白色に仕上がっている。完形で出土

対応テキスト：
text11.glb
須恵器

対応モデル：
model14.glb

番号	①	②
タイトル	柱穴	-
モデル	×	-
説明	○	-

小さな穴はすべて柱穴扱い



柱穴とは、柱を立てるための穴

対応テキスト：
text15.glb
柱穴

番号	①	②
タイトル	柱穴	-
モデル	×	-
説明	○	-

小さな穴はすべて柱穴扱い



柱穴とは、柱を立てるための穴

対応テキスト：
text15.glb
柱穴

越前国府発掘プロジェクト～越前国府跡発掘調査～

令和5年度（2023年度）に本興寺境内（国府1丁目地係）で実施した越前国府跡発掘調査では、平安時代の遺構が検出されました。

特に、幅2m50cmの溝は国府に関連する官衙施設の区画溝の可能性があり、越前国府の所在地解明の足掛かりとなる成果になりました。それ以外にも、建物の柱を立てる際に空けられた柱穴や、平安時代の遺物がいくつも埋まっていた土坑などが検出されています。

その他にも、平安時代の高級食器であった緑釉陶器や、ほとんど当時の形を保ったまま出土した須恵器があります。特に、緑釉陶器は三足盤と呼ばれる、盤に足が三つついた珍しい形のものが出土しています。

